

---



---

**実践報告**


---



---

順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究 2  
P.61 - 67 (2013)

— 2012年度順天堂大学医学部附属6病院主任研修会講演—  
5Sの視点からみた看護の質の向上

How is the Quality of Nursing Improved ?  
- From the Viewpoint of the“5S” Principle -

野村 志保子\*  
NOMURA Shihoko

### 要 旨

日本のモノづくりの現場から始まった“整理、整頓、清掃、清潔、躰”を徹底する5S活動は、組織の活性化や保全、作業の効率、教育訓練、利益の向上、無駄の排除などを目標としており、10数年前から医療の現場でも取り組みが始まり、その成果の報告がある。順天堂大学医学部附属6病院看護部でも5S活動を実施しており、2012年度6病院主任研修会では、「看護の質の向上を考える～5Sの側面から～」をテーマに取り上げた。本稿は、保健看護学部の実習室の整備状況に関心を寄せて頂いた6病院看護部の依頼による主任研修会での講演内容である。5Sの視点から実習室の環境整備と学生の教育の実際について再考したもので、主な内容は次のとおりである。

1. 看護学生が基本的な看護技術を学習する重要な教育設備である実習室の整備と学生の教育の実際について、“整理、整頓、清掃、清潔、躰”の5S活動のプロセスと対応させて再考した。
2. 実践している看護技術教育の教育計画立案および実践・評価と5S活動のプロセスの共通点を明示し、実践している教育計画の立案および指導の実際について紹介した。

索引用語：5S活動、実習室、教育設備、看護技術教育

Key words：5S activity, practice room, educational equipment, nursing art education

### 1. はじめに

日本のモノづくりの現場から始まった“整理、整頓、清掃、清潔、躰”を徹底する5S活動（5つの活動のローマ字読みの頭文字）は、組織の活性化や保全、作業の効率、教育訓練、利益の向上、無駄の排除など

を目標としており、10数年前から医療やサービス業など他の分野にも広がっている。5S活動の“整理、整頓、清掃、清潔、躰”は、当たり前のことを当たり前に実行することであるが、組織的に継続して実行するのは、簡単なようで難しい。しかし、これら5つの行為を習慣化し、定着化させることは組織に目に見える変化をもたらすという報告もあり<sup>1)2)</sup>、5S活動に取り組む医療機関が増えている。順天堂大学

\* 順天堂大学保健看護学部

\* *Juntendo University School of Health Sciences and Nursing*

(Aug. 28, 2013 原稿受付) (Sep. 6, 2013 原稿受領)

医学部附属6病院看護部でも5S活動を取り入れ、整理、整頓、清掃、清潔、躰を実践し定着させて、「仕事や行動の無駄をしない人、気づける人、行動する人を育て、看護の質の向上を図る」ことを目指しており、2012年度6病院の主任研修会（以下、本研修会という）では、「看護の質の向上を考える～5Sの側面から～」をテーマに取り上げた。

本稿は、保健看護学部（以下、本学部という）の実習室の整備状況に関心を寄せて頂いた6病院看護部の依頼により、本研修会で講演させて頂いた内容に加筆・修正したもので、5Sの視点からみた「本学部基礎看護学の実習室整備の実際および看護実践力を高めるための教育」について報告する。

## II. 5Sの視点からみた保健看護学部基礎看護学の実習室整備の実際

### 1. 5S「整理、整頓、清掃、清潔、躰」とは

5Sとは、整理（Seiri）、整頓（Seiton）、清掃（Seisou）、清潔（Seiketu）、躰（Situke）の5つのローマ字読みの頭文字をとったもので、躰を習慣と言いかえることもある（以下、5つの行為をまとめて表現する場合は、5Sという）。これら5つの行為は以下のような意味をもっている。

- ・整理：必要なものと必要でないものを分け、いらぬものを捨て、身の回りの無駄をなくすことで、5Sの中で一番難しいのが整理といわれる。組織的に行う場合、必要なものと不要なもののルールを決めることが大切である。
- ・整頓：必要なものを直ぐに取り出して使えるように、置き場所や置き方を決め、表示を明確にして保管する。つまり、整理と整頓は全く別のもので、整頓とは何であるかをきちっと明示することで、仕事の質の向上に影響する。
- ・清掃：使用したものの汚れをとり、きれいな状態にすると同時に点検して破損や故障などの問題

を見つけやすくする。

- ・清潔：整理・整頓・清掃は三位一体の活動ともいわれるが、清潔とは整理・整頓・清掃する活動を維持し、その良い状態を継続的に維持向上させることであり、目に見えにくい問題点に気づき、見つけていく段階である。
- ・躰：躰とは、決められたことを正しく守る習慣づけのことをいい、その意味から「習慣」ともいわれる。習慣づけできれば（躰がしっかりできれば）、目に見える問題点を改善するだけでなく、目に見えにくい問題にも着目して組織的に解決していくことができる。（以下、筆者の考えから躰（習慣）として表すことにする。）

### 2. 5Sの視点からみた実習室整備の考え方と実際

看護基礎教育における看護実習室は、看護学生（以下、学生という）が基本的な看護技術を学習する場であり、重要な教育設備である。学生は実習室で学習した基本的な看護技術を臨地実習で様々な患者に応用して看護を実践しながら、看護師に必要な看護技術を修得し、看護実践力を養っていく。学生が初めて看護技術を学ぶ実習室を最良の教育環境に整えることは教員の大きな責務である。また、学生が看護技術を学びながら、実習室を整備する力が身につくように教育することも重要で、このことは療養生活を送っている患者の療養環境を整える実践力に繋がると考えている。本研修会のテーマを踏まえ、本学部基礎看護学教員が実践している実習室の環境整備と学生の教育について、5Sの視点から再考してみたい。

#### 1) 整理・整頓

整理とは、前述したように必要なものと不要なものを分け、いらぬものを捨て、無駄をなくすことであるが、本学部には必要なものを必要な数だけ購入するため実習室に不要なものはない。このため整理にあたっては、物品の使用の目的や頻度などを熟慮し、“物

品を最大限、有効に使いこなす”という考えに基づき分類している。

整理した物品の整頓にあたっては、「物品を使いやすく、準備や後片付けがスムーズに短時間でできる」を目標に、どの場所に、どのようにセットすれば取り出しやすく、収めやすいかを検討している。戸棚や空間を有効に活用し、使用の目的や頻度、後片付けなどを考慮して配置するとともに、概観も整然と、美しい様相に整頓している。また、表示や収納ケースの色や形、大きさなども物品の形態や大きさに合わせて、価格も少し高くても質の良いものがよいのか、安価なものでもよいのかなどに選別して整えている。

以上、述べたような実習室に「整理・整頓」するには、教員が展開する授業の全体像を明確に描いていることが重要で、教育方針、教育内容、教育方法、授業中の学生の動きなどについて、担当者が一堂に会し、実習室でデモンストレーションを交えながら打ち合わせを綿密に行っている。

## 2) 清掃・清潔・躰（習慣）

整理・整頓された実習室の清掃・清潔・躰（習慣）を学生が持続的に実践できるように教育するのは、簡単なようで結構大変である。最近の学生は、掃除や洗濯、家事などをあまり行っていないため、指導計画を立て、具体的に、かつシンプルな方法で指導している。

使用したものの汚れをとり、きれいな状態にする清掃については、目標を『段取りよく、手際よく、短時間で片づけ、きれいにしよう!』と『後片付けは、次回の準備でもあることを理解しよう!』の2つを掲げ、教育している。教育方法の一例を紹介すると、最初は教員がデモンストレーションをし、さらに、清掃法を具体的に表示して教員と一緒に言いながら指導する。徐々に、学生は使用した物品をきれいに洗って磨き、水分を十分に拭きとり乾燥させて、元の位置に戻すという行為が、学生同士で協力しながら、手際よく、短時間で清掃できるようになる。実習室はい

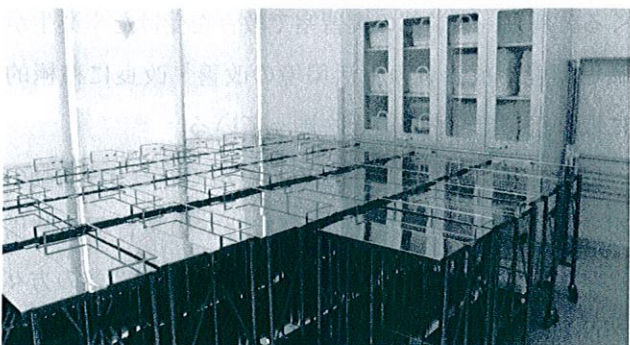
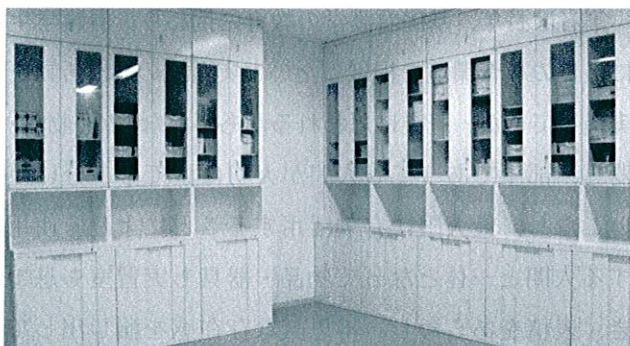
つでも使用できるように開放しているが、学生はルールを守り、繰り返し行うことで清掃行為が習慣づけられ、実習室の整理・整頓・清掃・清潔が定着してくる。入学後3ヶ月位経つと、学生は積極的、かつ主体的に行動するようになる。学生の5Sの行為が習慣化する段階まで辿りつくために教員が留意していることの一つは、清掃が苦にならず、手際よく、短時間で実行できるように清掃用具を十分に準備し、使用後は清潔にして、いつでも直ぐに使えるようにしていることである。さらに、特に入学後の初期段階では個々の学生に清掃の仕方を丁寧に指導するとともに、教員も率先して行動する率先垂範に心がけている。教員が学生と一緒に清掃・清潔を実践することは、整理・整頓や清掃のしかたなどの問題点を見だし改善するという継続的な活動に繋がっている。また、新人の教員は先輩教員の指導や学生と一緒に行動する経験を積むことで、実習室という教育環境を整理・整頓、清掃・清潔にする意味がみえるようになり、教育の全体像を見る眼や教育方法を養う大切な機会にもなっている。

筆者は長年、基礎看護学の教育に携わり、看護学生に最良の教育環境を提供したいと実習室の5S活動を実践してきた。唐突に思われるかもしれないが、物品・器具、部屋であっても人間が大切にして十二分に使いこなす、最大限に有効活用することにより、使用する人間と一体となって物品・器具も実習室も息づき、表情をあらわし、不思議な存在感を醸し出してくる。将来、本学部の実習室で教育を受けた卒業生が、職場環境や療養者の生活環境の改善・改良に積極的に取り組んでくれることを願っている。

以上、多くの医療機関が取り組んでいる5S活動の視点から、実践している看護実習室の教育環境整備と学生の教育について再考した。日本の製造業の方々が品質の管理や改良・改善、教育訓練などのために始めた5S活動は日常的に当たり前のことである。し

かし、当たり前のことを組織的に実践するのは難しい。本研修会のテーマである5S活動について勉強させていただき、医療現場における「整理・整頓・清掃・清潔・躰（習慣）」の意義について、改めて以下のことを再認識させられた。

- (1) 患者の治療や看護において適切な物品を、適切な時期・場面で効果的に活用することができる。これは“患者の安全を守る”ことに繋がる。
- (2) 必要な物品・器具を考えて整理・整頓すると、不要なものを購入したり、期限切れにして無駄にすることがないため、経済的である。
- (3) 清掃することで病棟・病室、病院全体が清潔を保持し、感染予防に繋がる。また、物品・器具の汚れを取り除き、手入れすることで長持ちさせ、破損や不良品を少なくし、物品購入の削減に繋がる。
- (4) 美しく丁寧に清掃された物品・器具、病棟・病室は、治療や看護を受ける患者に対して心地よさと安心感を与える。また、5S活動を実践することにより、患者の状況に応じて、段取りよく、手際よく、安全で心地よい医療・看護を提供でき、質の向上



本学部の5Sが実施されている実習準備室

に繋がる。

### Ⅲ. 5Sの視点からみた看護実践力を高めるための教育

本研修会の目的である「看護の中間管理者として“人を育てる”ための管理能力を高める」を踏まえ、筆者が実践している看護技術教育を5Sと対応させて考えてみたい。ここでは、看護技術に対する考え、次いで5Sの視点から教育計画立案および指導の実際について述べる。

#### 1. 看護技術とは

看護技術とは、専門知識に裏づけられ、看護者の患者を思いやる心が相まって、両手で表現される技術であり、患者を身体的にも精神的にも回復させるものと考えている。また、看護基礎教育で教育するのは看護技術の原理であり、①～③のような意味を持っている。

- ①様々な看護場面において、患者の状況に適した援助方法を創意工夫し、実践するときの基盤になる。
- ②患者にとっては心地よく、安全なもの、苦痛・不快を緩和し、生活の質を高める。
- ③看護者にとっては安全で、無駄がなく、熟達すれば患者の病状を回復させる。

筆者は看護基礎教育において看護技術の原理を徹底して学ばせる重要性を日本の芸道を極めた人々のことばから沢山の示唆を与えられた。歌舞伎役者であり舞踊家の坂東玉三郎氏はインタビューで、「型だけでは駄目、心がなければ！ 心だけでも駄目、型がなければ！」と言っている。また、落語家の立川談志氏は「型ができていない者が芝居をすると型なしになる！ 型がしっかりした者がオリジナリティを押しだせば、型破りになれる！」と。2人の言われる“型”が、まさに看護技術の原理である。日本の芸道の世界では芸を極めていくとき、『守→破→離』

の過程を踏みながら独自の芸を創りだしていくといわれる。『守』は芸の基本、つまり芸の“型”を身につける段階で、修得した“型”に自分の考えを取り入れ応用していく段階が『破』、そして独自の芸を創造する『離』の段階に到達する。独自の芸を産み出すには、芸の基本を身につける『守』の段階が最も重要で、独自の芸を産み出している坂東玉三郎氏も行き詰ったときは“型”に戻ると言っている。また、武道家の南郷綱正氏も基本となる“わざ”を確実に身につけていなければ、真の応用技術はうまれず、崩れた技術になってしまうと主張している<sup>3)</sup>。

3人のその道を極めた方々が言われていることは、看護基礎教育や臨床現場の教育において、指導者も学習者も胆に銘じていなければならない大切なことだと考える。

## 2. 5Sの視点からみた看護技術教育の計画立案と指導の実際

前項で述べた看護技術に対する考え方を踏まえ、各看護技術を構成している基本技術のレベルまで分析して、学生が一つひとつ積み上げて応用していく過程を踏めるように授業を構築し、実践している。授業計画の立案は、教育の方向性の明確化⇒教育内容の抽出・精選(知識、技術、態度)⇒教育目標(到達目標)の設定⇒教育方法の検討⇒評価内容、評価方法の検討という過程を踏み、授業は学生の反応を取り入れながら自在に展開している。日々実践している教育計画立案および実践・評価のプロセスと、製造業の方々が品質の管理や改良・改善のための教育訓練として取り入れた「整理・整頓・清掃・清潔・躰(習慣)」のプロセスには、以下のような共通点があるように思う。

- ①整理⇒教育内容(知識・技術・態度)を抽出・精選し、内容の類似性・関連性を検討する。
- ②整頓⇒教育目標(到達目標)を設定し、教育方法を系統的に組立てる。
- ③清掃⇒教育を実践(模範の技術の提示も含む)し、

学習者は自己学習を重ねる。

- ④清潔⇒学習者は学んだ看護技術を繰り返し実践しながら身につける。
- ⑤躰(習慣)⇒学習者は身につけた看護技術を土台にして、様々な患者の看護に応用する。

①～⑤について、もう少し考えてみたい。

### 1) 教育内容の抽出・精選、教育方法の検討

#### －5Sの整理・整頓－

この段階では、当該科目での教育方針を定め、教育したい知識・技術・態度、さらに関連する知識や技術を具体的に抽出する。次いで、抽出した教育内容の中から、教育の時期、授業時間数、学習者のレディネスなどを熟慮し、教育する内容を精選する。例えば、看護の現場における新人教育では、看護部全体で教育する内容と部署の特性等も考慮して精選する必要がある。教育内容を精選した後、教育内容を鳥瞰し、類似性・関連性のあるものをカテゴリー化する。教育内容の類似性・関連性を検討することで、教育内容をシンプルにし、教育の核になるものが見えてくるとともに、教育方法の創意工夫へと繋がる。5S活動の中で一番難しいのが整理といわれるように、教育内容の抽出・精選は、当該科目だけでなく教育課程全体を見回しながら行わなければならないため、時間的なことや緻密さ、忍耐力等の面からも大変な作業過程である。教育内容を精選し、類似性や関連性を検討した後、具体的かつ達成可能な教育目標を設定できるので、この過程で手を抜くと、目標と教育内容が乖離したり、一貫性のない授業展開に陥ることになりかねない。

教育方法の検討にあたっては、類似性・関連性を検討した教育内容をどのように系統的に配列するかが大切になる。例えば、単純な(やさしい)看護技術から複雑なものへと段階を踏みながら、既習学習に新学習の内容を積み上げて学習させる方法もある。次に大切なことは、授業の導入の題材や方法をどのようにするかである。学習者が科目(病院であれば部署)

で学ぶことが見えてくるような導入の方法であれば、学習者自らがその授業で学びたいことを掴みとり、授業の展開に大きな興味・関心を抱き、学習者に効果的な動機付けができる。筆者は、授業の導入で学生がつかみ取った内容と科目の教育目標、授業計画を関連させながら説明している。新人看護師の場合、これから学ぶ内容とその学習の過程が明確に分かるような導入の方法を検討することが大切ではないかと思う。

## 2) 教育計画に基づく実践

### －5Sの清掃・清潔・躰（習慣）－

5S活動が、「整理・整頓・清掃・清潔・躰（習慣）」のプロセスを踏み、改善・改良していくように、教育も計画に基づき実践しながら、学習者自身の看護実践力を高めることで、施設全体の看護の質の向上に繋がってくるのではないかと考える。

看護の実践場面の教育において重要な一つは、ケアの行う前に、準備から実施、後片づけまでの段取りをしっかりと考え、実践させることである。つまり、準備の仕方、作業域の整え方、実施中の動き、後片づけの仕方などを具体的にイメージさせながら行う。最近、「段取り」ということばは現場では使われなくなっているが、学習の初期の段階で「段取り」の大切さをしっかりと理解し、実践できることは、ケアをスムーズにし、時間の短縮にもなり、患者の苦痛を緩和し、さらには精神面に心地よさを与える。また、患者の安全を守り事故の防止にも繋がる。ひとつの看護行為には、準備、作業域の調整、観察、コミュニケーション、患者への配慮、実施、後片づけまで含まれており、この一連の過程を実践力として身につけることが重要である。

指導方法の一例として、臨地実習で実践している方法を紹介する。

(1) 指導者が行うことを観察：原理がどのように活用されているか、疑問に思うこと等を学習者に整理させる。看護ケアの内容によっては、先に学習者同士で実践し、原理を再認識させることもある。

(2) 指導者の指導のもとに実践：学習者の状況にあわせ、一人で実施できるように指導する。

(3) 実践後の評価：実践した行為を評価し、修正し、再度実践する。実施後、次回（今後）までの課題も明らかにする。

筆者がこれまで実践してきた看護技術の教育の一部を紹介させていただいたが、指導にあたって重要なことは、指導内容や方法をシンプルにすること、学習者に“専門知識・技術だけでは駄目！心がなければ！”、“心だけでも駄目！専門知識・技術がなければ！”をしっかりと理解できるように教えることだと考えている。

## IV. 看護の質を向上させるために、指導者も指導を受ける者も身につけたいこと

看護活動の場において5S活動を習慣化・定着化させ、看護の質を高める教育にあたっては、指導者と指導を受ける者の人間関係が基盤になる。人間関係を円滑にし、教育の効果を上げるための基本的なマナーや考え方について、感銘を受けた方々の言葉や考え方、心がけていることを紹介する。

1. 一人の人間として、組織の一員として、専門職として身につけたいこと

1) 仕事中は、基本的なマナーに心がける。

(1) 仕事中は不機嫌な表情や言動は慎みたい。

渡辺和子氏は、“不機嫌は環境破壊、公害です！”と言っている<sup>4)</sup>。

(2) 会ったら会釈を交わす。

草柳大蔵氏は、“会釈はいたわりです！”と言っている。ちょっとしたスマイル、少しだけ頭を動かして会釈するだけでも心が和むからだという<sup>5)</sup>。

(3) ユニホームはいつも清潔に着こなす。

草柳大蔵氏は、服装について「私はこう生きています」という表示でもあり、社会的には“着る言葉です！”と言う<sup>6)</sup>。



図1 認識ののぼりおり

2) 論理的にものを考え、分析し、実践する能力、自分の専門性を発展させる実行力を身につける。筆者は庄司和晃氏の三段階連関理論－認識ののぼりおり－の考え方を教育に取り入れており<sup>7)</sup>、図1は学生に分かりやすいように表したものである。

3) 指導するときも、指導を受けるときも、自分が立つ位置を認識し、指導内容に柔軟にとりくむ姿勢で臨む。

## 2. 指導者として身につけたいこと

1) 「教育とは何か」をいつも忘れずに、学習者と向き合う。

藤岡完治氏は、教育とは文化を伝えながら、学習者が主体的に文化を創りあげていく力を育てることで、教育者と学習者の努力による共同の過程であると言っている<sup>8)</sup>。ここでいう“文化”を、“看護”と考えることもできるのではないかと思う。

2) 教えることを複雑に考えすぎない!

筆者が長く教育に携わってきて、心がけていることのひとつである。一見、複雑に見えるものでも、単純な組み合わせでできていることを認識し、シンプルにして教えるように努力している。

## V. おわりに

2012年度6病院主任研修会の企画担当者から、5Sの視点から「看護の質の向上を考える」というテーマを頂いたとき、5S活動のことを全く知らなかった。

講演の準備を機に、勉強させていただき、依頼のきっかけとなった実習室の整備についてこれまで実践してきたことを再考する有意義な機会を与えられ、心より感謝している。

順天堂大学医学部附属6病院看護部の中間管理者である主任の方々は、日常の教育場面で様々な壁にぶつかり、忍耐と我慢が強いられてくることも多々あると思いますが、6病院の看護の充実と発展のために活躍されることを心より祈念しています。

## 引用文献

- 1) 伊藤とし子：職場のリスク感性をどのように育てていますか－5Sを基盤とした現場主導型の取り組み（福島赤十字病院）、Nursing BUSINESS、3(3)、56-60、2009
- 2) 竹田総合病院（2013. 5. 10）：Topics 病院5S活動の進め方と成果－目に見える組織の変化－（[http://www.otsukakj.jp/med\\_nutrition/palette/dlfile.cgi/777/tv73p07.pdf](http://www.otsukakj.jp/med_nutrition/palette/dlfile.cgi/777/tv73p07.pdf)）
- 3) 南郷綱正：武道の理論、三一書房、135-212、1978
- 4) 渡辺和子：目に見えないけれど大切なもの、19、PHP 研究所、2001
- 5) 草柳大蔵：花のある人花になる人、106-107、グラフ社、2002
- 6) 草柳大蔵：花のある人花になる人、134-135、グラフ社、2002
- 7) 庄司和晃：三段階連関理論－認識ののぼりおり－、13-53、季節社、2000
- 8) 藤岡完治：関わることへの意志－教育の根源－、国土社、144-147、2000
- 9) 高原昭男 / 竹田総合病院：病院5Sの進め方－5Sで医療ミス・医療事故をなくす！、日本能率協会コンサルティング、2005